

美幌町観光振興革新戦略ビジョン

平成28年度～平成38年度

「ホッ」とする町！！

～きっと行きたくなる癒しのまち“びほろ”～



平成28年8月

美 幌 町

はじめに



美幌町は、平成20年5月に「美幌町観光振興計画」を策定し、観光振興を図ってまいりましたが、策定から現在までの間、観光客の旅行形態やニーズは大きく変化しています。

これらの変化に対応するとともに、年々減少している観光入込客数の安定維持、拡大を図るためには新たな観光振興施策を確立し、行政、民間、町民のみなさまが一体となり、取り組むことが重要であると考えております。

このため、今回「美幌町観光振興計画」を改訂し、事業を実践的に展開していくために、名称も「美幌町観光振興革新戦略ビジョン」と改名し、戦略的に取り組んでいくための指針として策定しました。

美幌町観光振興のコンセプトとして定めた、『「ホッ」とする町！！～きっと行きたくなる癒しのまち“びほろ”～』を実現するためには、施設整備の充実とともにホスピタリティの向上が必要であり、「観光ひとづくり」「観光ものづくり」「観光まちづくり」をキーワードとして、3つの連携を図りながら推進しまちの活性化につなげていきたいと思っています。

町民のみなさまにおかれましては今回策定した「戦略ビジョン」の趣旨をご理解いただき積極的なご参加と、ご協力をお願いいたします。

終わりに、本計画の策定にあたり、多くの時間を費やし、熱心に議論をいただきました「美幌町観光振興計画策定会議」の委員のみなさまをはじめ、関係各位に対し、心から感謝を申し上げます。

平成28年8月

美幌町長 土谷 耕治

目 次

I 策定の基本的考え方

- 1 趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 2 期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 3 計画の位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- 4 観光視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

II 美幌町観光の現状

- 1 観光資源・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- 2 観光客の動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
- 3 交通・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

III 特産品・土産品等・・・・・・・・・・・・・・・・11

IV 観光関連業種の状況

- 1 物販・飲食業・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
- 2 温泉業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
- 3 みどりの村関連施設・・・・・・・・・・・・・・16

V 美幌町観光の課題・・・・・・・・・・・・・・・・18

VI 観光振興の基本的方向	
1 観光振興のコンセプト	21
2 観光振興に向けたキーワード	22
3 戦略ビジョン体系概念図	23
VII 観光振興に向けた具体的戦略	24
資料編	34
美幌町観光振興革新戦略ビジョン策定経過	35
策定会議委員名簿	36
第2次美幌町観光振興計画策定会議設置要綱	37

I 策定の基本的考え方

1 趣 旨

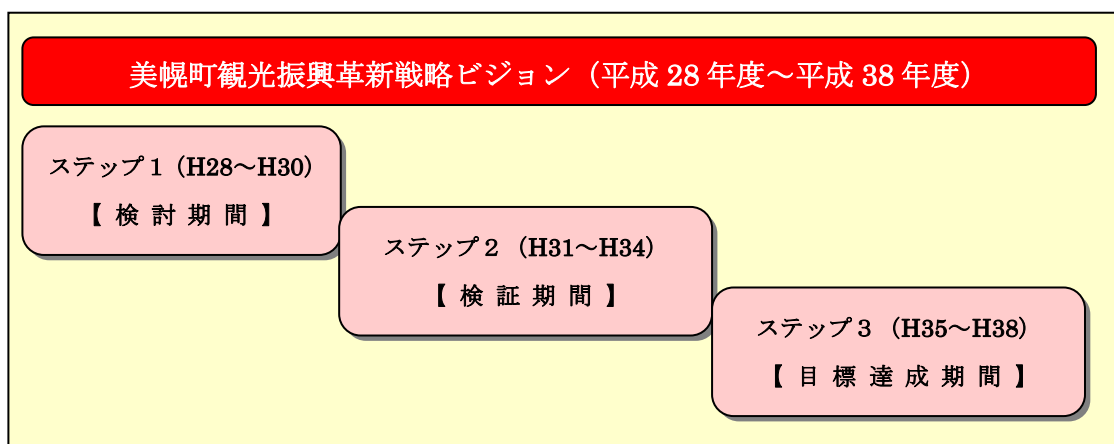
美幌町は、町全体で観光振興を進めるため、平成 20 年度に美幌町観光振興計画を策定しましたが、平成 27 年度をもって期間満了を迎えることから、平成 28 年度を初年度とする計画を策定することとしました。

この計画は、年々減少している観光入込客数の安定維持、拡大を図るために観光物産協会、商工会議所、行政、各関連団体及び企業等がより一体となって具体的な活動ができるように、また、限られた時間や資源を最大限に活用し、効果的で効率的な事業をより実践的に展開していくための「道筋」と「目指すべき姿」を明確にするために「美幌町観光振興革新戦略ビジョン」と改名し、戦略的に取り組んでいくための指針として策定したものです。

2 期 間

今回策定する「美幌町観光振興革新戦略ビジョン」は、第 6 期美幌町総合計画の計画期間である平成 38 年度までを期間とします。

また、平成 28 年度から平成 30 年度までをステップ 1 の期間とし、検討を行った上で次のステップ 2（平成 31 年度～平成 34 年度）へとつなげ、さらにステップ 2 の検証内容を踏まえて、ステップ 3（平成 35 年度～平成 38 年度）で到達目標達成に向けて取り組みます。



3 計画の位置づけ

第6期美幌町総合計画の実行計画として位置付け、第6期美幌町総合計画の将来像である「ひとがつながる、みらいへつなげる ここにしかないまち びほろ」を目指し、経済（観光）分野の基本目標である「まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり」を実現するため、総合計画との連動を図ります。

4 観光視点

(1)国内・道内における観光の現況

- ・消費者の価値観が多様化することにより、より一層個性的なものが求められており、特に国内旅行では、マストツアー※は減少傾向にあり、個人、小グループで旅行する形態が増加傾向にあります。
- ・北海道は、リピート率が高い地域であることから、各地域において地域資源を活用し他との差別化が進んでいます。

※マストツアー：観光が大衆化され、効率良く行われるツアー（団体旅行とほぼ同義）

(2)地域活性化の可能性

- ・観光客が流入（交流）することにより、観光施設・食堂・ホテル等様々な分野に経済的波及効果が期待できます。
- ・これまで、何も活用していないものについて、新たに着目することにより観光資源化を図ることが可能です。
- ・観光は、地域経済を潤すための有力なツールです。

Ⅱ 美幌町観光の現状

1 観光資源

(1)既存の観光資源

美幌町は、阿寒国立公園に位置する景勝地「美幌峠」を有しております。

また、道東の空の玄関口「女満別空港」から車で10分、4本の国道が町内を通り、自然景観、交通条件等の観光面において非常に恵まれた立地です。観光施設については「美幌峠レストハウス」「峠の湯びほろ」「みどりの村森林公園」「グリーンビレッジ美幌」「物産館ぽっぽ屋」などがあります。「美幌峠レストハウス」については、平成14年8月に「道の駅」に登録され、現在でも北海道において人気の高い道の駅です。

しかしながら、当町を訪れる観光客のほとんどが美幌峠に立ち寄る通過型であり、季節的にも夏季に集中し冬季の来訪客が著しく少ない状況にあります。近年「見る観光」から「体験・体感する観光」へ、「団体」から「少人数グループ」へとといったツアー観光から個人の趣向に合わせた観光へと変化することも相まって入込観光客数が伸び悩んでいる状況にあります。

【観光資源位置図】



1 みどりの村森林公園
(グリーンビレッジ美幌)



2 物産館ぽっぽ屋



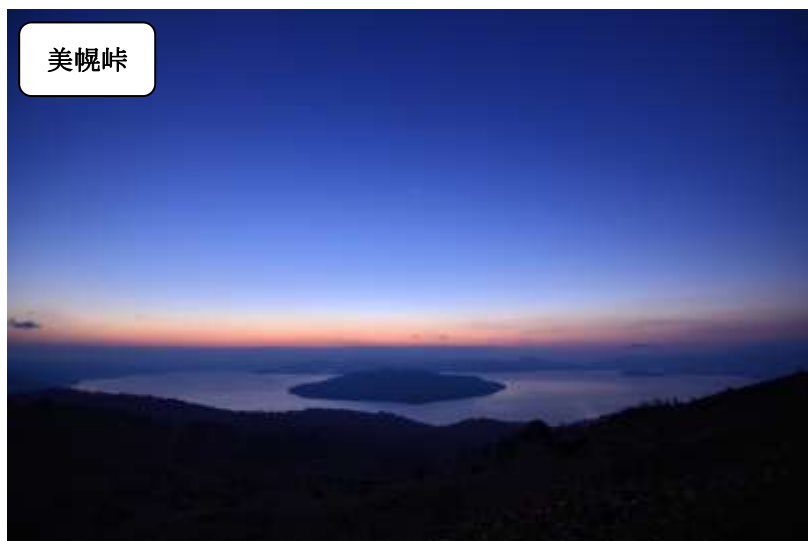
3 峠の湯びほろ



4 美幌峠

本町の重要な観光資源である美幌峠においても、年々入込客数が減少している状況であることや依然として冬季の入込客数の落ち込みの改善がなされていない状況であります。

ただし、移動手段で比較的多い自動車に対しては、高速道路の整備が進んだことにより移動時間が短縮され遠方からの観光客も期待できます。



美幌観光和牛まつり



びほろ夏まつり



びほろ冬まつり



観光イベントとしては、「美幌観光和牛まつり」「びほろ夏まつり」「びほろ冬まつり」などといった、季節の特色を活かしつつ、内容を工夫し差別化したイベントを開催しています。

(2)今後の観光資源の可能性

美幌駅に隣接する美幌林業館「きてらす」は、平成 27 年度にリニューアルし、子ども達が木の遊具等で遊べる施設で、町民を中心に町外者にも多く利用されており、今後、観光資源としての可能性が期待できます。

美幌林業館「きてらす」



2 観光客の動向

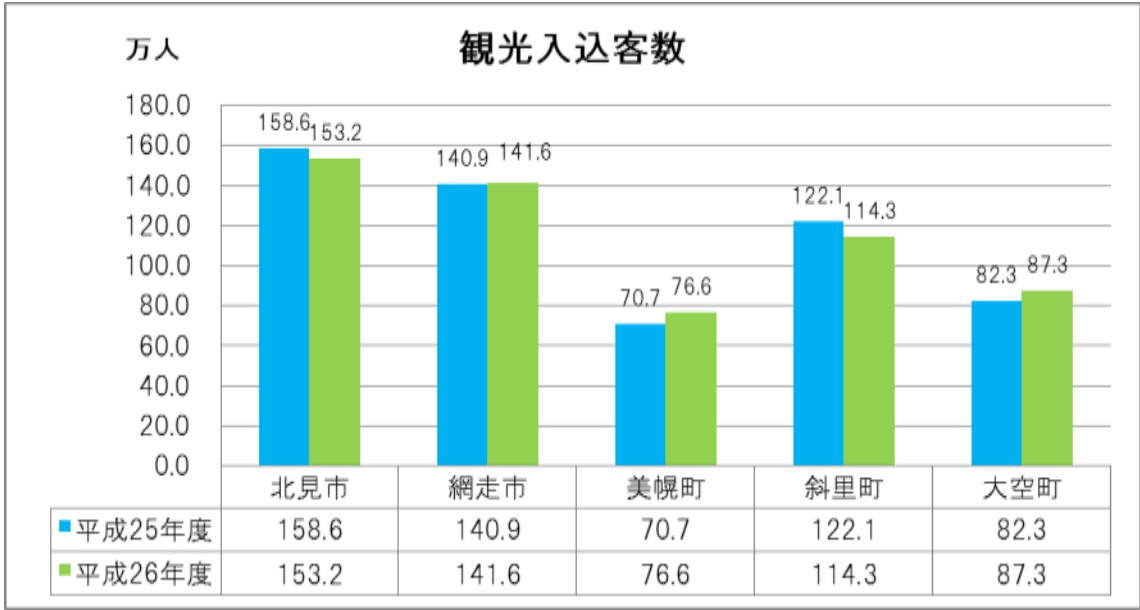
(1)観光客入込数の動向

北海道の観光客入込数（延べ人数）については、平成 25 年度 1 億 3179 万人に対して、平成 26 年度は 1 億 3343 万人と約 164 万人の増となっており、オホーツク圏を除く 5 地域が前年度に比べ増加しており、釧路・根室圏 6.0%、十勝圏 2.7%、道北圏 2.1%、道南圏 1.5%、道央圏 0.6%の増加となりました。

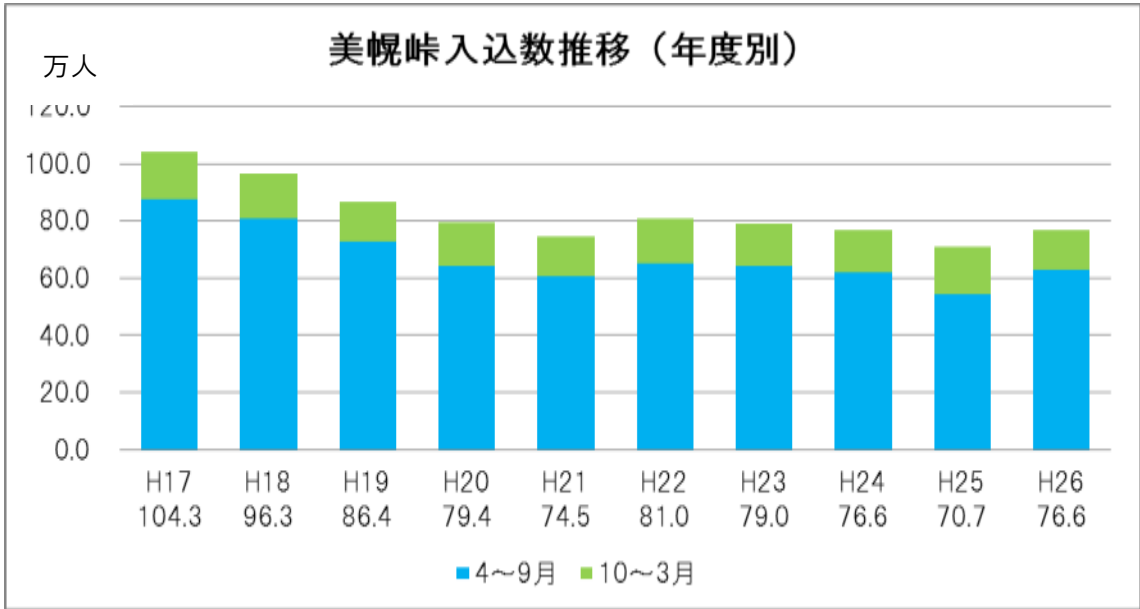
最も多く増加した釧路・根室圏は、釧路と中部の航空路線の再開、釧路港などへのクルーズ船の寄港の増加などが増加要因となっています。

一方で、オホーツク圏域は、平成 25 年度 847 万人に対して、平成 26 年度 830 万人と約 17 万人の減となっています。これは、「山の水族館」（北見市）の来場者数が落ち着いてきたことや、夏のイベント開催時の悪天候が重なったこと、冬期間の暴風雪に伴う通行止めなどにより減少となりました。

なお、美幌町における美幌峠の入込客数は、平成 25 年度 706,590 人の入り込みに対して、平成 26 年度 765,530 人と約 58,000 人の増となっています。これは、新たに夜間や早朝にイベントを開催することによる、美幌峠の魅力発信ができたことも増加の要因のひとつと考えられます。



北海道経済部観光局：北海道観光入込客数調査報告書

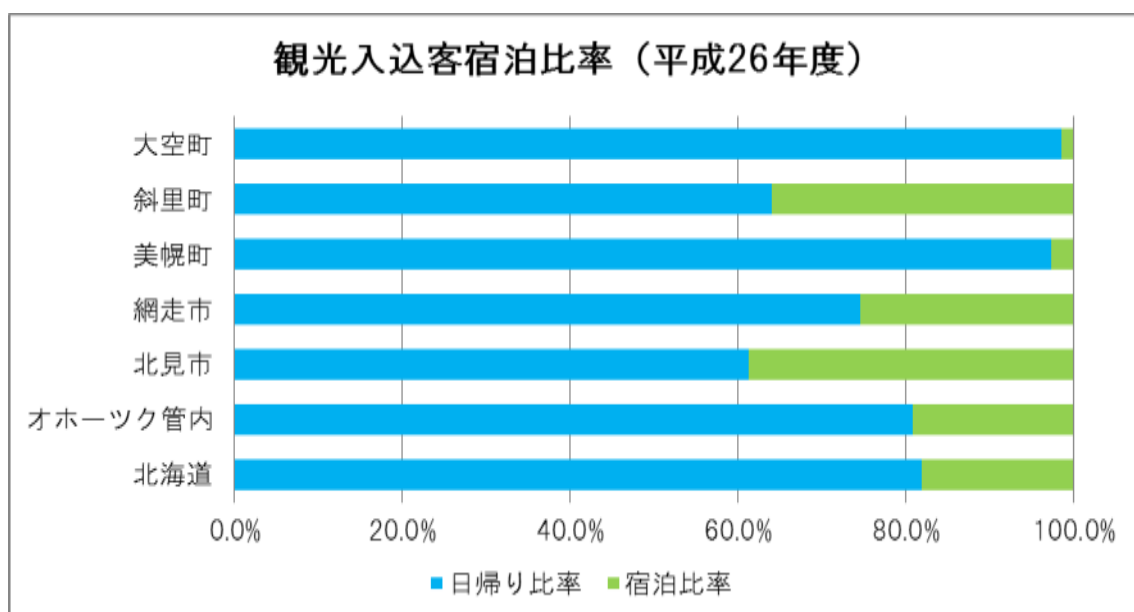


美幌町経済部商工観光グループ：美幌峠入込数統計

(2) 宿泊者数の動向

平成26年度北海道の宿泊比率をみると81.9%が日帰客で、オホーツク圏域でも同程度の割合を示していますが、美幌町における日帰客比率は97.3%となっており、通過型観光であることが数値として表れています。

オホーツク管内の宿泊については、北見市が38.7%、斜里町が36%、網走市が25.4%となっており、温泉地等へ集中傾向にあることやビジネスの宿泊も大きな影響を与えていると考えられます。



北海道経済部観光局：北海道観光入込客数調査報告書

また、美幌町内における宿泊業としては、8 施設あり総客室数 140 室、総定員 357 人となっております。(平成 28 年 4 月 1 日現在)

これらの宿泊施設は主に市街中心部に立地しており、観光利用よりもビジネス利用及びスポーツ合宿利用が大半となっております。

宿泊施設一覧表			
施設名	所在地	客室	定員
青葉荘	新町 3	16	40
グリーンビレッジ美幌	美禽 258	11	46
後樂園ビジネスホテル	瑞治 140	19	47
美幌グランドホテル	栄町 2	40	95
ホテルアーバン	東 1 北 1	18	32
民宿おがた	新町 3	8	21
民宿峠荘	仲町 2	21	60
民宿ふくろう	報徳 92	7	16
合 計		140	357

【平成 28 年 4 月 1 日現在】 美幌観光物産協会：宿泊施設

町内の宿泊数は、年間約 2 万人程度で推移し、宿泊のピークは観光シーズンとスポーツ合宿シーズンである 6 月～8 月となっております。

グリーンビレッジ美幌



3 交 通

美幌町は、オホーツクの空の玄関口である女満別空港からは車で約 10 分のところに位置しております。

女満別空港の発着便は、東京（羽田）便、名古屋（中部）便、札幌（新千歳）便が就航しております。

北海道という広大な地域において、首都圏・道央圏等からの主要アクセスは飛行機が主になるため、本町が空港に隣接していることは、大きな強みとなる反面、旅行行程において通過地点となる要素があります。条件の優位性を活かすためにも目的地とされる魅力づくりを推進する必要があります。

また、特急列車、都市間高速バスともに美幌町は停車駅（場）となっているため、道央圏とのアクセスは非常に恵まれていると言えます。

JR美幌駅



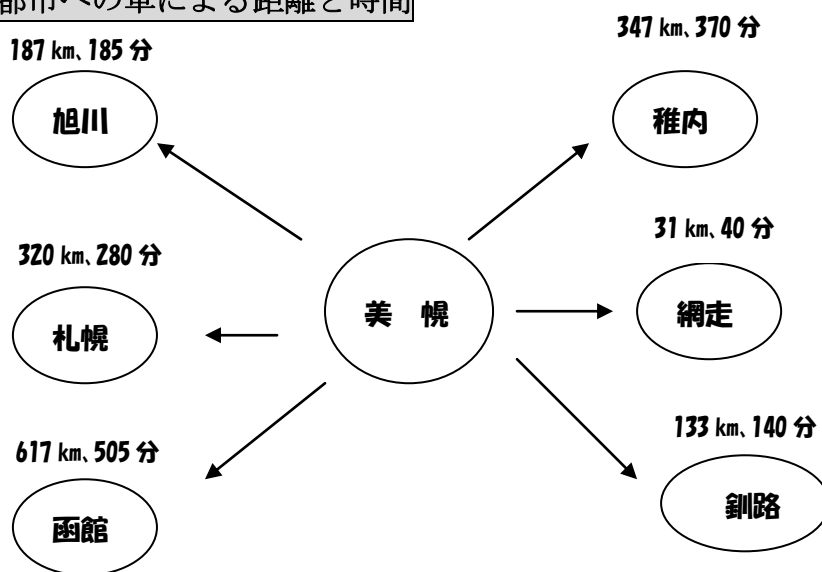
近年、マイカーやレンタカーで道内観光をする人が増えてきていますが、街と街との距離が離れている北海道においては、都市間を結ぶ自動車交通網整備が観光のみならず、行政、流通、教育、医療等重要な役割を担います。

美幌町は、一般国道 39 号、240 号、243 号、334 号の 4 本の国道が通る交通の要衝となっており、平成 17 年 7 月には美幌町字高野から女満別空港に至る 7.9 km の「美幌バイパス」が開通となり、網走、女満別空港方面及び北見方面への利便性が向上されました。これら幹線道路の整備により、美幌町を起点としたオホーツク圏、釧路・十勝圏への観光ルート構築が可能となり、バリエーションのある観光、地域産業の活性化が期待されています。



都市間アクセス向上が期待される美幌バイパス

道内各都市への車による距離と時間



■女満別空港から主要空港への飛行時間

女満別	—	札幌 (新千歳)	45 分
女満別	—	東京 (羽田)	1 時間 45 分
女満別	—	名古屋 (中部)	2 時間 05 分

Ⅲ 特産品・土産品等

美幌町で製造、販売されている特産品・土産品は、各種農産加工品をはじめとして菓子類、麺類、酒類、木工品、陶器など多種多様で、物販施設で美幌名物、名産として販売されているものの、広く観光客等の人気を集めている（認知されている）ものは少ないのが現状となっていますが、観光客に対し“地域の特徴”を最も反映させることができるものは、「特産品」といえます。

地元産物をきっかけに“びほろ”という地域ブランドを確立し、それが受け入れられることで観光が地域経済の活性化につながり、なおかつ住民が今一度地元の良さを再認識し、意欲が高まることで積極的な行動が起こるなどの効果が期待されます。

種 類	主 要 製 品 等
農 産 品	小麦、甜菜、馬鈴薯、たまねぎ、豆、にんじん、アスパラ等
加 工 品	美幌豚醬まるまんま、おかず味噌、山わさび醤油づけ、 びほろ豚ジンギスカン、北斗ポーク豚のじんかん、 メープルシロップ、美幌和牛ほろほろ煮込カレー、 彩るソース、ビートオリゴ糖、じゃがバター等
菓 子 類	美幌豚醬まんじゅう、せんべい、甘納豆、米菓等
麺 類	美幌小麦中太ちぢれ麺、かぼちゃうどん、 美幌アスパラ入りうどん等
酒 類	純米吟醸びほろ、びほろワイン等
木 工 品	つみきの森等 (国際基準で管理された美幌産のトドマツを使用した木工品)
陶 器	美幌窯“オホーツク焼”等 (オホーツク海をモチーフに焼き上げた独特のデザイン陶器)

特産品の写真



美幌豚醬まるまんま

地元の野菜を与えた美幌産の豚肉を、塩と麴で加水せずに熟成させることにより、豚肉本来の旨味が凝縮し、さまざまな料理の隠し味としてご利用できます。

販売者：合同会社びほろ笑顔プロジェクト



おかず味噌

地元の高校生が栽培した青大豆を使って商品化した自慢の「ご飯のお供」です。具材も出来る限り地元産にこだわり、なんばん・行者にんにく・たまねぎ・ぶた肉・ふきのとうの全5種類を用意しました。

販売者：美幌観光物産協会



美幌和牛ほろほろ煮込カレー

美幌産の黒毛和牛とたまねぎ、にんじん、じゃがいもを長時間煮込みました。やわらかい牛肉と野菜の旨味を凝縮した、美幌町だけのプレミアムカレーです。

販売者：美幌町農業協同組合



つみきの森

国際基準で管理された美幌産のトドマツを使用した積み木セットで、小さなお子様でも安心してお使いいただけるよう加工しました。木のぬくもりと暖かみを感じてみてください。

販売者：松下工芸舎

IV 観光関連業種の状況

1 物販・飲食業

美幌峠レストハウス



観光客をターゲットにした物販、飲食施設としては、「ぼっぼ屋」「美幌峠レストハウス」、「峠の湯びほろ」があり、また、町外客にも人気のある飲食店としては、美幌駅前のそば店や市街中心部の焼肉店などがあります。

美幌峠レストハウスは、平成14年8月に道の駅「ぐるっとパノラマ美幌峠」として登録されており、1階に地域の特産品などの物販スペース及び「現代の峠の茶屋」をコンセプトとしたレストラン、2階のパブリックスペースには屈斜路湖が一望できる展望ゾーンがあり、毎年多くの観光客が訪れています。

ぼっぼ屋

物産館「ぼっぼ屋」はJR美幌駅に併設されており、運営は美幌観光物産協会が行い、美幌町の農産物、銘菓、工芸品等の特産物を販売し、地産地消拡大の一翼を担っています。

また、「ぼっぼ屋」独自のイベント開催により、コミュニティの場を提供するほか、各種イベント等に出店するなど、物販だけではなく地域の活性化や地元PR等幅広い活動に取り組んでおります。



ぼっぼ屋 収穫感謝祭



出店風景



さっぽろオータムフェスト

オホーツク観光物産フェア



2 温泉業

温泉業としては、「峠の湯びほろ」と民間温泉ホテルの2施設があります。

「峠の湯びほろ」は、市街地から美幌峠に向かって約4kmの国道243号沿いに平成8年12月にオープンし、町の観光拠点であるとともに、町民の健康づくりや町内外の人との交流の場としての役割を担っている施設です。

丸太材を梁に使った珍しいドーム型大浴場には、デザインの異なる二つの浴室があり、全身浴をはじめ、気泡浴、薬湯、打たせ湯、露天風呂などの風呂とサウナ（ミスト、ドライ）を備え、館内にはレストランや売店、交流ホールなどの設備も整っております。

毎年、約10万人の方が利用され、町内公共施設では一番活用されている施設となっております。

峠の湯びほろ



ゆったりくつろぎの空間

【峠の湯びほろ】

天井が高い

“ドーム型大浴場”



3 みどりの村関連施設

みどりの村は、中心市街地から網走川をはさんで約2kmの距離に位置し、みどりいっぱいの総面積約33haのエリアに、郷土資料、開拓資料が常設展示されている「美幌博物館」、森林浴やキャンプを楽しめる「森林公園（キャンプ場）」、「農村公園」、農産物加工の体験及び宿泊も可能な「グリーンビレッジ美幌」といった美幌町の自然や産業、歴史を学び、体験できる施設が一体的に整備されています。

また、森林公園内では、大型の「ウェルカム美幌のれん」の設置、さくらの植樹、冬期の「かんじきウォーキング」など、訪れる人に体感できる空間となるようにさらなる整備を進めています。

みどりの村



【みどりの村全景】



【ウェルカム美幌のれん】



【みどりの村キャンプ場】

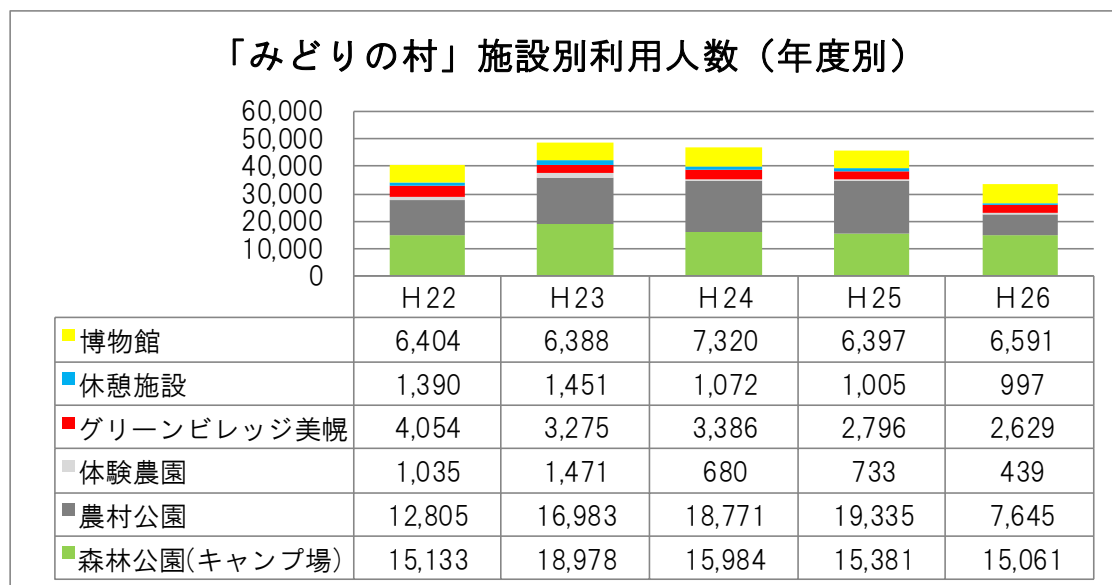


【満開のさくら】



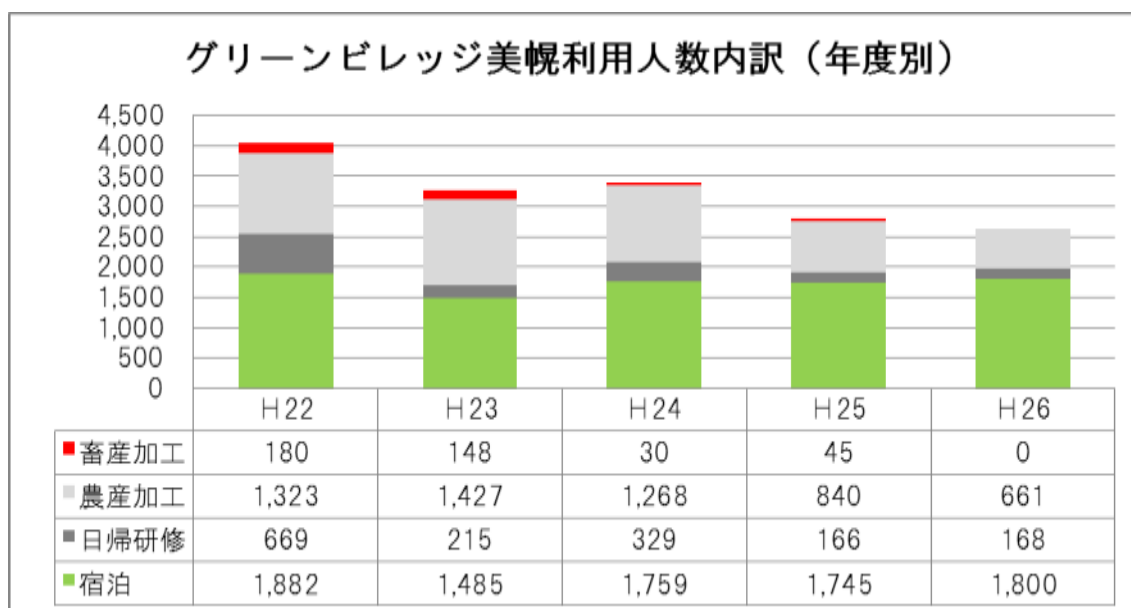
【かんじきウォーキング】

みどりの村関連施設の利用者数の推移をみると、年間 5 万人前後で推移しており、「森林公園（キャンプ場）」「農村公園」の利用が多くなっており、体験型のニーズがあることがうかがえます。



(一財) 美幌みどりの村振興公社：みどりの村施設入場者実績比較表
美幌博物館：博物館入館状況

また、「グリーンビレッジ美幌」については、年間約 3,000 人が、宿泊や農産加工実習等に利用している状況にあります。



(一財) 美幌みどりの村振興公社：みどりの村施設入場者実績比較表

V 美幌町観光の課題

1 観光振興の中心となる人材不足

美幌町には、景観・食・文化・自然体験など多くの観光資源となりえるものがありますが、連携しながら進めていくことが重要であり、その中心となる人材が不足しているため、人材育成を図ることが望まれます。

2 観光形態

美幌町の観光は、美幌峠の夏季に集中しております。

近年「遊ぶ」「交流する」「体験する」など体験型メニューを望むニーズが増加傾向にあるため、今後体験型観光としての可能性を秘めた観光資源を調査し、活用することにより、観光客の市街地への波及や夏季集中からの脱却が期待されます。

3 希薄な観光イメージ

美幌町の観光は美幌峠に依存していますが、観光客のイメージとしては、道東エリアの阿寒湖、摩周湖、屈斜路湖を含む広域観光エリアの一ポイントとしてのイメージとなります。したがって、美幌町という「まち」「地域」としてのイメージは希薄となっています。

4 未発見の観光資源

美幌町は豊かな自然に恵まれ、全国屈指の景勝地である「美幌峠」や四季折々の風景等観光客を引きつける資源が多くありますが、その素晴らしさに気付いていない、もしくはその認識が低い傾向があります。

美幌峠は「天下の絶景」と称され認知度も全国レベルにありますが、それゆえに「美幌峠」への依存度が高く、他の素晴らしい自然景観に対する認識、PR等が立ち後れている感が否めません。

地元で生活していると当たり前になっている景観も、来訪者に感動を与えるポイントとなりえる可能性もあることから、居住している私達の認知不足や情報不足、PR不足によりその有効活用がなされていないと考えられます。

5 情報発信

観光情報の発信・PRは先行投資的な性質を持っており、その効果は見えにくいものではありませんが、観光振興においては重要となります。

情報発信の現状は、宣伝媒体の活用不足、発信情報の分かりにくさなどの問題点が挙げられるため、紙媒体・インターネットの活用や美幌観光物産大使※との連携など、様々な情報発信方法を検討する必要があります。

※観光物産大使：首都圏在住者及び道央圏で活躍している方々で構成される19名（平成28年4月1日現在）を美幌観光物産協会会長、美幌町長連名により美幌観光物産大使として任命しています。

6 観光施設

近年の旅行形態は「団体」から「個人」、「バス」から「レンタカー」と大きく変化してきており、特にカーナビゲーションの普及により旅行者の意志により好きなときに好きな場所を観光するという傾向が高まってきています。

その際、重要なポイントとして、他地域からの来訪者がスムーズに希望している場所へ行ける案内板等の整備、充実が求められておりますが、本町の場合、市街地にあっては形成が複雑化しており、さらに案内標識が少ないため、来訪者が迷いやすく、また、案内しづらい状況となっております。

また、観光施設として重要なポイントは、トイレ等利用者に配慮した施設であり、町内施設の改善を図ることが望まれます。

町内の宿泊施設は8施設、収容人員357名（平成28年4月1日現在）となっておりますが、多人数を収容できる宿泊施設が少なく、スポーツ合宿や全道規模の各種大会等への対応に限りがあるのが現状となっております。

町内には、温水ため池等の施設や閉校になった学校校舎がありますが、それらを観光資源として活用している状況にはありません。体験型観光のニーズに対応するためにも、これらの施設を積極的に利活用していく必要があると考えられます。

7 イベント

全国各地で様々なイベントが開催され、多くの観光客が来訪しています。

美幌町においても四季折々にイベントを開催していますが、その多くがボランティアスタッフの支えにより運営されています。

しかしながら、近年の少子高齢化によりボランティアスタッフ数が減少しており、厳しい運営状況にあります。

なお、イベントの効果としては、知名度の向上、他地域からの集客のほか地元住民の交流や活力増進にも寄与している部分が多分にあることから、観光推進の起爆剤として継続すべき事項であると思われます。

8 特産品・料理

美幌町の農作物は高品質であり、加工品の原材料として数多く使用されているものの、その産地表示がされているものが少なく、一般にはその認知度はあまり高くありません。

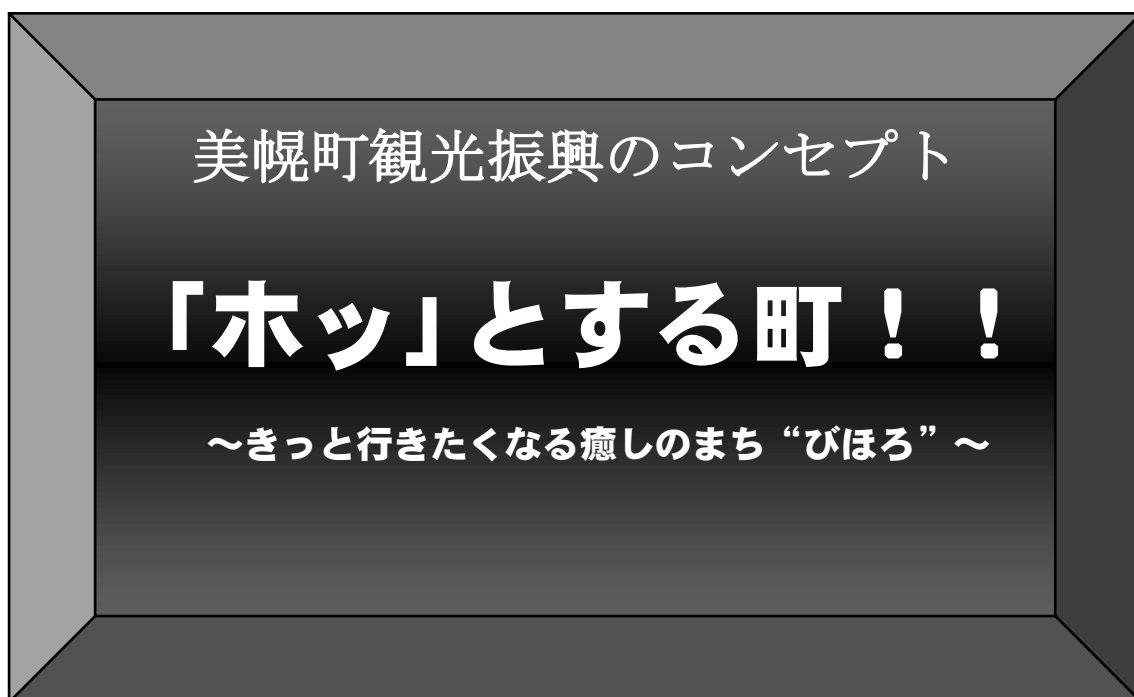
加工品、菓子等においても、美幌町で製造、販売されている物産は数多くありますが、「美幌＝〇〇」というものが少なく、その認知度は高いとは言い難い状況となっております。

また、食事に関しても全道的に名の知られた店舗や質の良い料理を提供する店舗もありますが、いわゆる郷土料理といわれるものが少なく、認知度については低いものと思われます。

VI 観光振興の基本的方向

1 観光振興のコンセプト

今後の観光振興において、新たな観光資源を調査し可能性を探るとともに、見る場所や食べる場所などの未利用施設を含めた既存施設について、最大限に活かすことにより、「ホッとひといきできる場所」、多くの方が「行きたくなるまち」を目指すとともに、ストレス社会においては、癒しを求める傾向が年々増加しているため、来訪者に癒しを提供したいとの思いから、美幌町観光振興のコンセプトを下記のとおりさだめます。



2 観光振興に向けたキーワード

前述で明らかにした課題を踏まえ、今後より細かな対応やホスピタリティ※の向上とともに、新たな観光資源として体験型観光などを推進するため、「観光ひとづくり」「観光ものづくり」「観光まちづくり」をキーワードとして、3つの連携を図り、以下の基本方針をさだめ、具体的戦略を積極的に推進します。

※ホスピタリティ：心のこもったおもてなし

【ひとづくり】

人材育成など「ひと」づくりを中心に観光振興を図ります。

【ものづくり】

マップ、特産品など「もの」づくりを中心に観光振興を図ります。

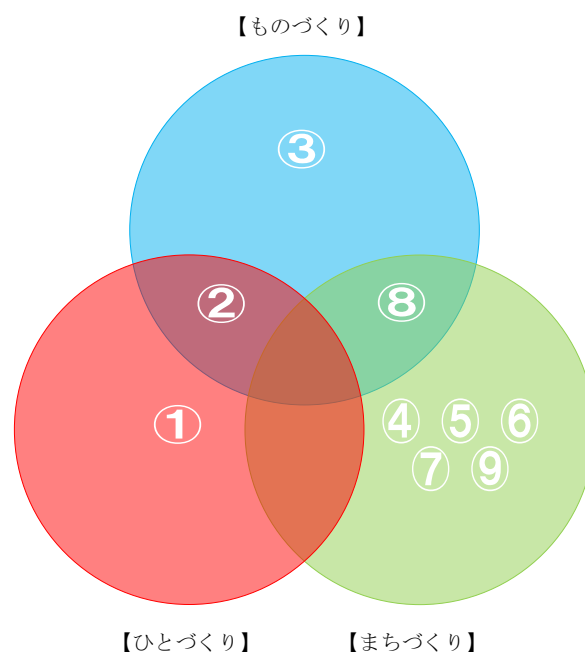
【まちづくり】

施設の充実や新たな観光資源の育成（体験型等）など「まち」づくりを中心に観光を図ります。

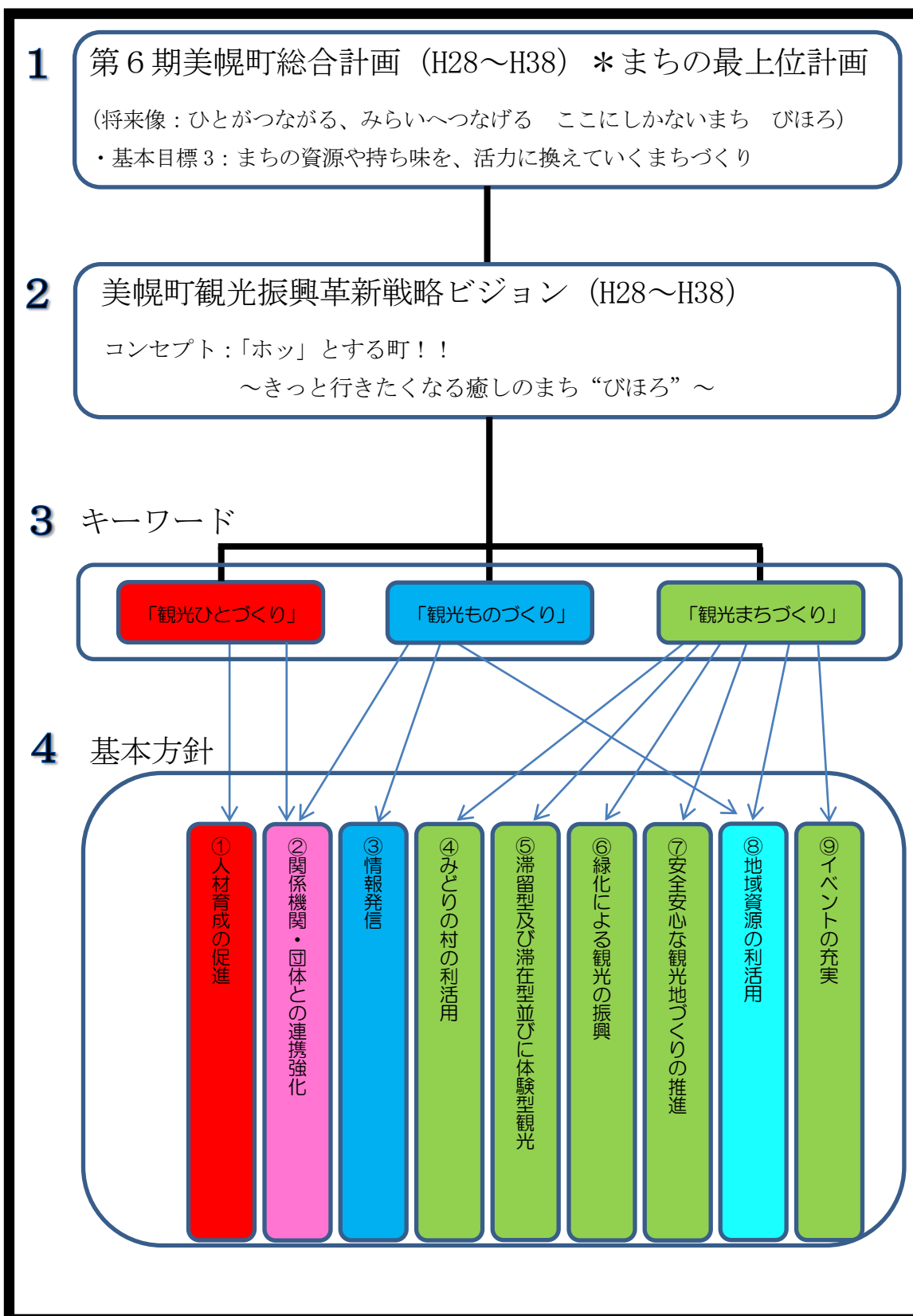
■3つのキーワードにおける基本方針ごとの位置関係

◇基本方針一覧◇

- ①人材育成の促進
- ②関係機関・団体との連携強化
- ③情報発信
- ④みどりの村の利活用
- ⑤滞留型及び滞在型並びに体験型観光の推進
- ⑥緑化による観光の推進
- ⑦安全安心な観光地づくりの推進
- ⑧地域資源の利活用
- ⑨イベントの充実



3 戦略ビジョン体系概念図



VII 観光振興に向けた具体的戦略

*太枠については、最重要戦略と位置づけ積極的に推進します。

基本方針	到達目標 (平成38年度)	具体的戦略
①人材育成の促進	<p>景観・食・文化・自然体験など町の魅力を十分に活かした観光振興の中心となる人材を育成します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 観光物産協会、商工会議所、町の3団体を中心に、「核」となる質の高い人材の発掘・育成を図ります。
②関係機関・団体との連携強化	<p>観光関連団体と連携を強化し、既存組織の活性化を図るとともに、新規の連絡協議会等の組織化を目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 観光関連団体間の連携を強化し、観光情報の共有、観光振興策の検討を行うとともに、意識の高揚を図るための組織化を目指します。
	<p>関係機関等と情報交換会を開催することにより連携強化を図り、観光と結びついた事業実施に取り組みます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各種交流事業の把握と周辺地域や本町とゆかりのある地域等との情報交換会を開催し、観光と結びつけた事業実施に取り組みます。 既存の広域観光協議会をはじめ、関係機関や団体等との連携を強化し、「ひがし北海道」の観光振興の推進を図ります。
	<p>「食」の観光の仕掛けを関係機関と連携し目指すとともに、美幌高校へのサポート体制を確立し、商品開発や食育事業などの推進を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 美幌高校へのサポート体制を確立し、商品開発や食育事業などの推進を図ります。 飲食店や旅館などの関係業種間と連携し、美幌の食材にこだわった料理の研究・開発により、「食」の観光の仕掛けを目指します。

実施主体及び 協力団体 ◎：実施主体 ○：協力団体	ステップ 1 (H28 年度～H30 年度)	ステップ 2 (H31 年度～H34 年度)	ステップ 3 (H35 年度～H38 年度)
◎観光物産協会 ◎商工会議所 ◎町	<ul style="list-style-type: none"> ・美幌町の魅力を再確認し、どのような人材を求めているか検討します。 ・発掘、育成プログラムの作成を検討します。 	【検証期間】 ステップ 1 の検討内容を踏まえて、検証を行います。	【目標達成期間】 ステップ 2 の検証内容を踏まえて、到達目標達成に向けて取り組みます。
◎観光物産協会 ◎商工会議所 ◎町	<ul style="list-style-type: none"> ・関連団体との連携強化策を検討します。 ・既存組織の再確認と活性化策を検討します。 		
◎観光物産協会 ◎商工会議所 ◎町 ○各関連団体及び企業等	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関等と情報交換会を開催することにより連携強化し、広域も含めて観光と結びついた事業内容を検討します。 ・美幌高校へのサポート体制について検討します。 ・関係する多様な業種間において、連携できる体制づくりを行い、「食」の観光の仕掛けを検討します。 		

基本方針	到達目標 (平成 38 年度)	具体的戦略
③情報発信	<p>景観・食など町の魅力が、多くの観光客に届くように多様な手段を活用し情報発信に努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ロードマップ」や「うまいものマップ」などを作成し広く情報発信の提供を図るとともに、パンフレット及び報道機関並びにSNS等を活用した情報発信に努めます。
	<p>東京美幌会へ出席するなど美幌観光物産大使と直接対話する機会を増やすことにより連携を密にし、都市圏を中心としたPR活動の推進を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・美幌観光物産大使との連携を密にし、都市圏を中心に積極的なPR活動の推進を図ります。
④みどりの村の利活用	<p>みどりの村を拠点に、四季を活かした魅力ある体験型観光プログラムの確立を目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「みどりの村」を拠点に、四季折々の体験型メニューの開発を検討し、魅力ある体験型観光プログラムの確立を目指します。
⑤滞留型及び滞在型並びに体験型観光の推進	<p>体験型観光のメニュー化及び受入体制づくりを推進します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境の保全に十分配慮しつつ、自然教育体験の推進や景観などの地域資源を活かした観光の推進を図り、“癒しの空間”の提供による滞留型及び体験型観光の推進を図ります。

実施主体及び 協力団体 ◎：実施主体 ○：協力団体	ステップ 1 (H28 年度～H30 年度)	ステップ 2 (H31 年度～H34 年度)	ステップ 3 (H35 年度～H38 年度)
◎観光物産協会 ◎商工会議所 ◎町	<ul style="list-style-type: none"> ・現状で不足しているマップ等の確認と今後どのようなものを作成すべきか検討します。 ・情報発信方法を検討します。 	【検証期間】 ステップ 1 の検討内容を踏まえて、検証を行います。	【目標達成期間】 ステップ 2 の検証内容を踏まえて、到達目標達成に向けて取り組みます。
◎観光物産協会 ◎商工会議所 ◎町 ○各関連団体及び企業等	<ul style="list-style-type: none"> ・美幌観光物産大使と直接会う機会を増やすことにより連携を密にし、情報交換を行い、都市圏を中心とした P R 活動の推進策を検討します。 		
◎観光物産協会 ◎商工会議所 ◎町 ○各関連団体及び企業等	<ul style="list-style-type: none"> ・体験型メニューについて、先進事例などを参考にみどりの村での実現可能性などを検討します。 ・季節ごとに体験型メニューの開発を検討します。 		
◎観光物産協会 ◎商工会議所 ◎町	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を再調査します。 ・体験型観光のメニュー化を検討します。 ・“癒しの空間”づくりについて検討します。 ・受入体制づくりについて検討します。 		

基本方針	到達目標 (平成38年度)	具体的戦略
⑤滞留型及び滞在型並びに体験型観光の推進	幅広い分野で合宿等の開催回数を増やすとともに、指導する機会の創出を図り、滞留型及び滞在型観光に結びつくよう取り組みを推進します。また、合宿等期間中に街なかの回遊を促進するため、観光情報を積極的に提供します。	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ及び文化団体の合宿や各種大会、研修会などの招致により交流人口の増加を図り、合宿団体等による指導の機会などを通し、参加者等が滞留型及び滞在型観光に結びつくような取り組みを推進します。 ・合宿団体等に対し観光情報を積極的に提供し、街なかの回遊を促進することにより地域経済の活性化を図ります。
	「ヘルスツーリズム」※や「グリーンツーリズム」※のプログラムや受入体制など事業運営を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設と健康増進を目的としたプログラムを連動した「ヘルスツーリズム」を推進します。 ・官民一体となった「グリーンツーリズム」の受入体制の整備や、農業及び林業の体験が気軽にできる条件整備を目指します。
	地元不動産業者と連携を図り、「空き家」の利活用について、「空き家バンク」等の利活用を目指し、滞在型観光の推進を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・地元不動産業者と連携を図り、「空き家」の利活用を推進することにより滞在型観光の推進を図ります。
	各関係団体と連携を図りながら、宿泊施設の誘致に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・滞在型観光の推進を図るため、商工会議所等の関係団体と連携を図りながら、宿泊施設の誘致に努めます。

実施主体及び 協力団体 ◎：実施主体 ○：協力団体	ステップ 1 (H28 年度～H30 年度)	ステップ 2 (H31 年度～H34 年度)	ステップ 3 (H35 年度～H38 年度)
◎観光物産協会 ◎商工会議所 ◎町 ○各関連団体及び 企業等	<ul style="list-style-type: none"> ・町内施設を再確認し、招致可能な分野を検討します。 ・滞留型及び滞在型観光に結びつく取り組み内容を検討します。 ・街なかの回遊を促進するために、どんな観光情報が必要か検討します。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・既存施設や各関係団体等の状況把握を行い、プログラムや受入体制など事業運営を検討します。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・地元不動産業者と連携を図れるよう協議します。 ・「空き家」の利活用方法を検討します。 ・「空き家」を活用した滞在型観光を検討します。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・商工会議所等の関係団体と連携を図れる体制づくりを行い、宿泊施設の誘致に向け検討します。 	【検証期間】 ステップ 1 の検討内容を踏まえて、検証を行います。	【目標達成期間】 ステップ 2 の検証内容を踏まえて、到達目標達成に向けて取り組みます。

*ヘルスツーリズム：医学的な根拠に基づく健康回復や維持、増進につながる観光。

*グリーンツーリズム：農山漁村を訪問して、その自然と文化、人々との交流をありのままに楽しむ観光

基本方針	到達目標 (平成38年度)	具体的戦略
⑤滞留型及び滞在型並びに体験型観光の推進	観光客にニーズ調査を実施し、現状把握したうえで、近隣の自治体や観光協会等と連携を図りながら、周遊プログラムの調査・研究を行います。また、「道の駅」などの集客施設の建設を推進し交流人口の増加を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の自治体や観光協会などの団体等と連携を図りながら、周遊観光プログラムの調査・研究を行います。 ・観光客にニーズ調査を実施し、現状の課題や方向性を見いだすとともに、滞在型観光の推進を目指します。 ・近年の観光形態に対応した「道の駅」などの集客施設の建設を推進し、観光交流人口の増加の促進を図ります。
⑥緑化による観光の推進	「みどりの村」などの広大な土地を利用した「花や樹木による観光」の可能性について調査・研究を行います。	「花の植栽」を継続するとともに、「みどりの村」などの広大な土地を利用した「花や樹木による観光」の可能性について調査・研究を行います。
⑦安全安心な観光地づくりの推進	<p>利用者に配慮した観光施設等の管理運営の推進と安全・安心な観光地づくりを推進します。</p> <p>外国人が安心して訪問できるよう、外国語表記の案内版や標識について、設置場所や表記方法などを調査し整備を推進します。</p>	<p>・トイレにおける清潔感や安心感など、利用者に配慮した観光施設や公共施設等の管理運営の推進により“ホッ”とする町!!”展開を図るとともに、“防災”“防犯”に配慮した安全・安心な観光地づくりの推進を図ります。</p> <p>・外国人が安心して、訪問できるよう外国語表記の案内版や標識などの整備を推進します。</p>

実施主体及び 協力団体 ◎：実施主体 ○：協力団体	ステップ 1 (H28 年度～H30 年度)	ステップ 2 (H31 年度～H34 年度)	ステップ 3 (H35 年度～H38 年度)
◎観光物産協会 ◎商工会議所 ◎町 ○各関連団体及び 企業等	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客にニーズ調査を実施し現状把握を行い、滞在型観光のあり方を検討します。 ・近隣の自治体や観光協会等と連携を取れる体制づくりを検討します。 ・広域において、周遊プログラムの調査・研究を検討します。 ・「道の駅」などの集客施設の建設を推進し、交流人口の増加を検討します。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・「みどりの村」などの広大な土地を利用した「花や樹木による観光」の可能性について検討します。 	【検証期間】 ステップ 1 の検討内容を踏まえて、検証を行います。	【目標達成期間】 ステップ 2 の検証内容を踏まえて、到達目標達成に向けて取り組みます。
◎観光物産協会 ◎商工会議所 ◎町	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者ニーズを把握し、どのような観光施設等が求められているか再確認します。 ・上記に基づく、管理運営方法を検討します。 ・各関係機関と連携し、安全・安心な観光地づくりの手法について検討します。 		
◎観光物産協会 ◎商工会議所 ◎町 ○各関連団体及び 企業等	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語表記の案内版や標識について、設置場所や表記方法について検討します。 		

基本方針	到達目標 (平成38年度)	具体的戦略
⑧地域資源の利活用	<p>新たな観光資源を調査し可能性を探るとともに、未利用施設を含めた既存施設などを最大限に活かした観光地を目指します。</p> <p>地域資源を活かした特産品の「開発」「販路拡大」等の支援を推進し、官民一体で特産品の確立を図れるように、各関係機関との連携を強化します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな観光資源の発掘や歴史的に価値ある観光資源を調査するとともに、「美幌博物館」と連携し活用の可能性を探ります。 ・安全面に配慮しつつ、「廃校」や「未利用施設」、「既存施設」などを最大限に活かした観光地を目指します。 ・地域資源を活かした特産品の「開発」「販路拡大」等の支援を推進し、官民一体となった特産品の確立を図ります。
⑨イベントの充実	<p>四季折々のイベントの開催を推進し、内容の充実に努め、魅力あるイベントを展開するとともに、来場者に配慮する取り組みを推進します。</p> <p>「食」を活かしたイベントの推進を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・四季折々のイベントの開催を推進し、「参加型」や「体験型」の要素を盛り込むなどイベント内容の充実に努め、“魅力あるイベント”の展開と交流人口の拡大、さらには来場者に配慮した取り組みの推進を図ります。 ・「食」を活かしたイベントの継続及び創出の推進を図り、「食」による観光の推進と交流人口の増加に努めます。

実施主体及び 協力団体 ◎：実施主体 ○：協力団体	ステップ 1 (H28 年度～H30 年度)	ステップ 2 (H31 年度～H34 年度)	ステップ 3 (H35 年度～H38 年度)
◎観光物産協会 ◎商工会議所 ◎町 ○各関連団体及び 企業等	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな観光資源を調査し可能性を探ります。 ・未利用施設を含めた既存施設などを最大限に活かした観光地づくりのあり方を検討します。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・官民一体で取り組めるように、各関係機関と連携を取れる仕組みを検討します。 ・地域資源を活かした特産品の「開発」「販路拡大」等の支援を検討します。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・季節ごとに開催できるイベントと既存イベントの内容の充実を検討します。 ・イベント来場者に配慮する取り組みを検討します。 ・「食」を活かしたイベント内容と交流人口の増加を検討します。 	<p>【検証期間】 ステップ 1 の検討内容を踏まえて、検証を行います。</p>	<p>【目標達成期間】 ステップ 2 の検証内容を踏まえて、到達目標達成に向けて取り組みます。</p>

資料編

美幌町観光振興革新戦略ビジョン策定経過

時期	策定会議
H27. 6	美幌町観光振興革新戦略ビジョン 第1回策定会議 ・策定主旨説明
H27. 7	美幌町観光振興革新戦略ビジョン 第2回策定会議 ・戦略ビジョン コンセプト&キーワード協議
H27. 8	美幌町観光振興革新戦略ビジョン 第3回策定会議 ・戦略ビジョン コンセプト&キーワード決定
H27. 9	美幌町観光振興革新戦略ビジョン 第4回策定会議 ・具体的取組内容の検討
H27. 10	美幌町観光振興革新戦略ビジョン 第5回策定会議 ・具体的取組内容の検討
H27. 11	美幌町観光振興革新戦略ビジョン 第6回策定会議 ・具体的取組内容の検討
H27. 12	美幌町観光振興革新戦略ビジョン 第7回策定会議 ・具体的取組内容の決定
H28. 1	美幌町観光振興革新戦略ビジョン 第8回策定会議 ・最重要項目及び重要項目に関する、到達目標、実施主体等の検討
H28. 2	美幌町観光振興革新戦略ビジョン 第9回策定会議 ・最重要項目及び重要項目に関する、到達目標、実施主体等の検討
H28. 3	美幌町観光振興革新戦略ビジョン 第10回策定会議 ・最重要項目及び重要項目に関する、到達目標、実施主体等の決定 ・戦略ビジョン全体内容の協議
H28. 4	美幌町観光振興革新戦略ビジョン 第11回策定会議 ・戦略ビジョン全体内容の協議 ・美幌町観光振興革新戦略ビジョン（案）完成
*町民等の意見反映について	
1	町内各観光関連団体等へアンケート調査実施（H27. 5）
2	パブリックコメント実施（H28. 6中旬～H28. 7中旬）

策定会議委員名簿

(敬称略)

氏名	団体名等	備考
信太真人	美幌観光物産協会	副会長
藤田吉一	美幌観光物産協会	
宮田博行	美幌観光物産協会	
沢田孝一	美幌観光物産協会	
佐野由希	美幌観光物産協会	
井手本正也	美幌観光物産協会	
横山清美	美幌商工会議所	
伊藤健一	美幌商工会議所	
横山喜義	美幌商工会議所	
福田孝俊	美幌商工会議所	
城裕幸	美幌町農業協同組合	
平田政二	(株)美幌峠物産館	
平野隆一	(株)共立メンテナンス 峠の湯びほろ	
大友真佐美	(同)びほろ笑顔プロジェクト	
佐藤雅和	一般	
大石次	一般	
矢萩浩	美幌町経済部長	会長

第2次美幌町観光振興計画策定会議設置要綱

(設置)

第1条 美幌町観光の振興を図る施策展開の指針となる第2次美幌町観光振興計画(以下「観光振興計画」という。)を策定するため、第2次美幌町観光振興計画策定会議(以下「策定会議」という。)を設置する。

(組織)

第2条 策定会議は、委員20名以内で組織し、その委員は、次に掲げる者のうちから町長が依頼する。

- (1) 町内の関係団体等から推薦を受けた者
- (2) 公募により申込みをした者
- (3) その他町長が必要と認める者

(任期)

第3条 委員の任期は、依頼した日から観光振興計画が策定された日までとする。

(会長及び副会長)

第4条 策定会議に会長及び副会長を置き、それぞれ委員の互選により決定する。

- 2 会長は、会務を総理し、策定会議を代表する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 策定会議は、会長が招集し、その議長となる。

- 2 会長は、必要があると認めるときは、策定会議に委員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(検討部会)

第6条 策定会議に検討部会を置くことができる。

- 2 検討部会員は、委員のうちから会長が指名する。
- 3 検討部会に部会長及び副部会長を置く。
- 4 前2条の規定は、検討部会について準用する。

(事務局)

第7条 策定会議に関する事務は、経済部商工観光グループにおいて行う。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、策定会議の運営に関し必要な事項は、会長が策定会議に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成27年6月19日から施行する。



美幌町観光振興革新戦略ビジョン

発行 平成28年8月

発行者 美幌町

策定 美幌町観光振興計画策定会議

編集 美幌町経済部商工観光グループ

北海道網走郡美幌町字東2条北2丁目

TEL(代表) (0152)73-1111